

だから私たちワーコレ!

20周年を迎えるにあたって、自身の生活に働く場としてワーカーズを位置付けてきた方々の登場です。働く場を自分たちで作る!ということにおけるそれぞれの思いを紹介します。

継続は仲間がいたから 回転木馬

1981年、生活クラブ生協の佐倉支部を結成する活動から、住んでいる地域で、環境や人材・食の安全をテーマとした仕事ができたらとの思いで、1985年7名でリサイクルショップ回転木馬を設立しました。雇われない働き方、全員が出資し経営していくW.Coは、理想的な働き方の一つに思えました。

当時、リサイクルショップは馴染みがなく、高級住宅地の入口に小さなプレハブ小屋の店構えは、住人から怪訝な目で見られていました。毎朝、手作りチラシを持ってゴミステーションを廻りながら、使い捨ての暮らしの見直しを訴えました。

設立から1年半後、街づくりを市政へ反映させるためメンバーの一人が市議選に挑戦、代理人*となり、トップ当選を果たしました。さらに4年後、メンバー2人も代理人となり、設立メンバーから3人の代理人を送り出す結果となりました。

1989年、新たな拠点づくりと新たに加入するメンバーの仕事づくりのため、第二店舗として地場野菜と惣菜の店をオープン。1993年、法人格を取得し、

安心して働き続けるための各種制度を導入し、メンバー全員扶養家族から抜け、社会保険に加入しました。

6年後、店の移転(立ち退きを迫られる)という一大危機が発生しました。しかし、それを転機に事業内容を見直し、3年後には多目的スペースをオープンし、現在に至ります。

設立から27年、お客さまからも「女性だけでよく続けてこられたネ」と言われます。何もない所から始めて「失敗しても元に戻るだけ」と考えれば、何でもチャレンジしてみようと思えたのです。それは『仲間がいたから』、その一言に尽きます。

回転木馬 飯田信子 (ワーカーズ歴 27年)

*代理人…市民ネットワークの議員は、市民が委ねた、議会・行政とのパイプ役ということで代理人と呼ばれた

回転木馬

回転木馬は1985年設立で、千葉県のW.Coとしては老舗です。設立当初は、リサイクルショップとしてスタートしましたが、現在は、リサイクル部門・食部門・着物部門、そして設立時からの夢だったフリースペース「ガイア」も実現し、地域のアンテナショップの役割を担っています。

次世代に つなごう 「かい」

W.Co「かい」真砂デポーで働き始めて、25年経ちました。メンバーになったきっかけは、ワーカーズだった知人が引越す際にメンバーを探していて、希望する曜日に仕事ができるという誘いに、バレーボールをしていた私の練習日と店の休みが同じ、他の仕事も続けられるという安易なものでした。

デポーでの仕事を通して、小学生3人の親である私が、それまで全く知らなかった生活クラブの消費材にもっと早く出会いたかったと思い、強くこだわりを持つようになりました。今でも記憶に残っているのは、合成洗剤とせっけんの違いの実験で、ブラックライトで蛍光色に光る衣類や、カイワレ大根の発芽の違いに目を見張ったことです。安心して美味しい食材を食べ続け、未来に継いでいきたいという思いが、地域にも少しずつ受け入れられ、組合員を増やすこともできました。

荷捌き場と呼ぶのにピッタリな仕事場は狭く、20kgの野菜を扱うなど、今ではよくできたと思うような力のいる作業ばかりでしたが、情熱を持ってデポーを立ち上げた中のお二方が明るく生き生きとしていたり、レジではほとんどの組合員の方が「ありがとう」「お疲れ様」と声をかけてくれるなど、



フロアで利用を呼びかけます!(真砂デポー) ふれあいのある良い時代だったと思います。

デポーが現在の所に移転し、「かい」は1995年に250人のワーカーズで10周年を行い、2005年には小規模ながら20周年行事を行い、さらなる継続へと歩んでいます。現在デポーはみつわ台と2デポーだけになりました。昨年から虹の街がコンサルタントを導入し、社会状況の変化に伴う、経営悪化からの脱出に努力しています。働き方、労働時間、経費などの見直しを余儀なくされていますが、その中であって、働いている私達は、ここで働く意義をしっかりと考え、自分達でできることを実行して、次世代へ安心の消費材を継承していかなければと思います。

(企)「かい」 鈴木うめ子 (ワーカーズ歴 25年)

1984年11月設立
組合員数 36名
・デポー請負、カルチャー教室

歩歩 W.Coには 事務局 自らが運営に参画する面白さがある

およそ20年前、「ワーカーズ・コレクティブ」という呼び名も、出資することの意味も知らずに、W.Coに参加しました。

立ち上げてから半年程経っても、仕事量が少なかったため、早く終了した時には、理事からの声掛けで、お茶を飲みながら、W.Coの働き方、考え方、運営、日々の仕事について等々、疑問や意見を交わしました。今思えば、ワークショップのようでした。また、外部の先輩W.Coから講師を招いての講演会など、毎年のように学習会や研修会を開催することで、W.Coの理念が浸透し、いつしか自分達で運営し働くことが当たり前になり、さらに運営するようになった。冷蔵品・冷凍品の仕分け作業は、想像以上に体にこたえましたが、閉鎖になる2006年の12月まで続けてこられたのは、現場だけでなく運営や事務局に携わる面白さがあったからだと思っています。

新規事業を起こさずに、閉鎖とともに解散してしまったことは残念ですが、別のW.Coに参加し、今も頑張っている仲間がいることは、とても嬉しいことです。今は雇用という形で事務局を

担っていますが、自分で考え、行動し、W.Coの皆さんと共に活動しています。同様に事務局入りした保田靖子さんも私も、気持ちは今もW.Coです。

W.Co千葉県連合会事務局 鳴島美也子(ワーカーズ歴)1991年7月W.Co歩歩に加入。2005年8月W.Co千葉県連合会の柏移転に伴い、保田さんと共に事務局員として雇用され、歩歩とのダブルワーク。2006年12月W.Co歩歩解散、現在に至る。

歩歩	
1990年12月設立	
1991年2月より業務開始	
2006年12月解散	
・生活クラブの冷蔵・冷凍消費材の仕分け、組込み作業の請負	
最終年度 組合員 約200名	
事業高 約2億円	



連合会事務局にて。左が鳴島さん、右が保田さん

20周年記念のテーマは こうして決まった



地域を変える・ 社会を変える

私たちワーカーズは、生活者として自分たちの住む地域がどうありたいかを考え、経済活動を担う一員として主体的に街づくりに参加しています。

働くことを通して、また働く場が、子育て・食・高齢福祉・環境etc...地域の課題を解決し、それぞれの地域を少しずつ変えることに繋がります。そして生活者に優しい誰もが住みやすい社会とは?を改めて考える1年にします。

W.Coが「協同組合地域貢献コンテスト」で最優秀賞を受賞しました!

国際協同組合年(IYC)のイベントとして「協同組合地域貢献コンテスト」がありました。WNJ*も24の事例(千葉から3)の紹介で応募し、結果、応募総数215件から最優秀賞を受賞しました。

2012年7月18日(水)に日本協同組合連絡協議会(JJC)2012年国際協同組合年(IYC)全国実行委員主催で行われた「第90回国際協同組合デー記念中央集会」にて、受賞が決定しました。

W.Coの他にも3団体が受賞しましたが、審査の視点は協同組合原則・第7原則の「コミュニティへの関与」を重視、また、先駆性・持続性という点が評価の主な基準となりました。W.Coは、四半世紀に及ぶ運動とそれを支える事業展開が女性を中心に行われてきた

ことを評価したい、との講評を受け、WNJ代表 宮野洋子さん(現W.Co千葉県連合会WNJ専任理事及びW.Co紙ふうせん)は「講評を聞きながら、これまでの活動を改めて思い起こし感無量です。この受賞をきっかけに、さらに運動を広げていきたい」と今後の抱負を含め、W.Coの現況を語っています。

今年度の国際協同組合年をきっかけに、ますます働く人の協同組合として、W.Coへの参加を社会へ呼びかけていきたいと思っています。 専務理事 渡辺伽奈

*WNJ...ワーカーズ・コレクティブ ネットワーク ジャパン。 1995年、W.Coの全国組織として設立される。W.Coのネットワーク化を図り、社会的認知を進める活動、W.Coの法制化運動を行っている。

協同組合地域貢献コンテスト 審査員講評

後藤 千恵(ごとう ちえ) NHK解説委員

最も良い事例として、ワーカーズ・コレクティブ ネットワーク ジャパンの取り組みを選びました。「全国370を超えるワーカーズ・コレクティブ。それぞれが、地域の課題に目を向け、行政では解決できない様々な課題を解決に導いています。多様なやりがいのある働く場を地域に創出するとともに、地域に新たなつながりを創り出し、安心・安全を広げることに成功している。無縁社会といわれ、閉そく感溢れるこの日本社会で今後、一層の活躍が期待されます」。